

令和元年度日本教職大学院協会研究大会「実践研究成果発表」における発表教職大学院等について

開催日：令和元年12月8日（日）

第1会場（中会議場1）

(1) 10:30～11:30 埼玉大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
埼玉大学教職大学院のカリキュラムの現状と改革の方向性 －共同探究を軸としたカリキュラム改編と授業改善－	
澤崎 俊之（埼玉大学教職大学院教授） 宇佐見香代（埼玉大学教職大学院教授） 岩川 直樹（埼玉大学教職大学院教授）	埼玉大学教職大学院は、専任である研究者教員、実務家教員だけでなく、教育学部すべての教員が兼担として指導に関わりながら、理論と実践の融合型カリキュラムを展開してきた。 2019年度に入り、これまでのカリキュラムを踏まえ、現代的な教育課題に対応したテーマに関する調査研究及び、実地研究での学びを深め実践力を高める省察の充実をめざすカンファレンスを構想し、具体化に向けた取り組みを行っている。

(2) 12:50～13:50 北海道教育大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
北海道教育大学教職大学院の組織的研究－命の教育プロジェクトを中心に－	
井門 正美（北海道教育大学教職大学院教授） （*他に発表メンバーが加わることもある。）	本院では、2015(平成27)年10月から、全教員で取り組む組織的研究に取りかかり、現在、「Active e-Learning」と「命の教育プロジェクト」の2つをテーマとしている。本発表では、特に、後者の研究内容について詳しく紹介する。 今日、学校現場では、関係者の様々な努力にも関わらず、子どもたちの自尊感情の低さ、他者への思いやりや倫理観の欠如、いじめ、自殺等が問題視されている。家庭でも、虐待やDV、育児放棄など、命に関わる問題が社会基盤を揺るがす大きな問題ともなっている。こうした現状に鑑み、本院では全教員に共通する重要課題として、生きることへの志向性を促進する教育実践研究を展開しているが、資料を基に詳細を紹介する。

第2会場（中会議場2）

(1) 10:30～11:30 創価大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
国際比較研究による学び ーシンガポール海外実地研究の取り組みを事例としてー	
宮崎 猛（創価大学教職大学院教授） 山崎めぐみ（創価大学教職大学院准教授） 嶺井 勇哉（創価大学教職大学院学生） 白尾 隆（創価大学教職大学院学生） 半田 愛実（創価大学教職大学院学生） 渡辺 優（創価大学教職大学院学生） 濱 佳子（創価大学教職大学院学生）	本学では2008年度の教職大学院開学当初から米国、中国、シンガポールへの海外への実地研究を行ってきた。本発表では本年度7月に行われたシンガポール実地研究を取り上げる。シンガポールは広く知られているように教育に多くの資源を投入し、先進的な教育を行なっていると伝えられている。実際の授業はどのように行われているのか。児童生徒のモチベーションはいかなるものか。教師を取り巻く環境は日本と比較しどのようなになっているのか。現地では公立小学校、中学校、高校、幼稚園等において、授業実践、ならびに現地教員、児童生徒との交流を行った。それらの成果を比較研究の視点から発表することになる。

(2) 12:50～13:50 福井大学連合教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
社会に開かれた高校教育改革の実践とそれを支える教職大学院カリキュラムの検証	
木村 優（福井大学連合教職大学院准教授） 鮫島 京一（福井大学連合教職大学院准教授） 西野 功泰（札幌市立札幌大通高校教諭） 永田 卓裕（福井県立羽水高校教諭）	福井大学連合教職大学院では、社会に開かれた高校教育改革の要請を先見し、2015年度より、（1）OECD Education 2030の枠組みから福井県立高校との協働実践研究、（2）教師教育コラボレーションの枠組みから奈良女子大学附属中等教育学校との拠点校協働実践研究を推進してきた。本発表では、社会に開かれた高校教育改革の実践とそれを支える教職大学院の取組の成果として、上記2軸から展開した高校2校の実践研究と教職大学院カリキュラムを検証し、高校教育改革下における教職大学院の役割と使命を提起、議論していく。

(3) 14:10～15:10 岐阜大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
教職大学院と教育委員会が連携した学校管理職養成の取り組み	
平澤 紀子（岐阜大学教職大学院教授） 原 尚（岐阜大学教職大学院特任教授） 丹羽 美彦（岐阜県教育委員会教職員課教育主管）	岐阜大学教職大学院は岐阜県教育委員会と連携して、学校管理職の計画的な養成を開始した。本報では、その取り組みと成果を大学サイドと教育委員会サイドから報告する。 1. 岐阜県教育委員会から派遣される教頭登用試験合格者等の現職教員を対象とした「学校管理職養成コース」における学校経営専門職養成のためのカリキュラム 2. 学校管理職養成コースのカリキュラムや組織を活用した県の教員研修事業（岐阜県全体の教頭任用前の学校管理職養成講習と任用後の新任教頭研修）

第3会場（中会議場3）

(1) 10:30～11:30 玉川大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
Society 5.0時代に向けた新しい学びを“学ぶ”実践と課題	
佐藤 修（玉川大学教職大学院教授） 久保田善彦（玉川大学教職大学院教授）	次期学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力として「情報活用能力」が位置づけられた。小学校ではプログラミング教育が導入されることになった。また、文科省からは、新時代の学びを支える先端技術活用推進方策が示されている。これらは体験を通して理解すると共に、教育現場で実践や指導法の開発が、教職大学院に求められる。本発表では、それらを意図した大学院での授業実践や課題研究の事例を紹介し、今後のあり方を考察する。

(2) 12:50～13:50 愛媛大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
地域の先端教育研究拠点を目指す愛媛大学教職大学院	
露口 健司（愛媛大学教職大学院教授） 高橋 葉子（愛媛大学教職大学院特定教授）	愛媛大学教職大学院では、地域の先端教育研究拠点となるべく、「Society 5.0対応事業」「地域活性化事業」「75歳現役社会対応事業」を展開している。Society5.0対応事業では、AI・ICTを活用した遠隔授業、教師用スマートロボット開発、ロボットプログラミング授業を実践している。地域活性化事業では、過疎地域における教員研修支援を通して、教職大学院による地域活性化に挑戦している。75歳現役社会対応事業では、チーム学校スペシャリスト養成講座を開設し、退職教員が生涯輝き続ける道を、教育委員会・教育センターとの連携を通して、模索している。

(3) 14:10～15:10 静岡大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
静岡大学教職大学院における理論と実践の往還 ～これまでとこれから～	
武井 敦史（静岡大学教職大学院教授） 町 岳（静岡大学教職大学院准教授）	静岡大学教職大学院は、その設立からここまでの10年間で、約200名近くの修了生を送り出してきたが、2020年度からは、大学院（学校教育研究専攻）と教職大学院（教育実践高度化専攻）が1本化し、新教職大学院としてスタートすることになった。移行の最終年度にあたる本発表では、現行の教職大学院のこれまでの取り組みをふりかえると同時に、新教職大学院に向けた構想や取り組みを紹介することで、静岡大学新教職大学院としてのこれからの展望する。

第4会場（中会議場4）

(2) 12:50～13:50 長崎大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
大学・県教育センター連携による「育成指標」に基づいた管理職養成講座の試行と評価	
篠崎 信彦（長崎大学教職大学院教授） 藤本 登（長崎大学教育学部教授）	本研究科では、平成31年度より長崎県「育成指標」に基づいた管理職養成コースを開講した。本コースでは大学教員と地域の教育界が連携して、長崎県における今日的教育課題へ対応できる「地域リーダー」の養成を行う。本発表では、この管理職養成コースが開講する「学校経営総論」と長崎県教育センターが実施する「管理職（候補者）対象研修講座」の「単位互換」制度化を目指した取り組みを紹介する。また、「育成指標」を手掛かりに、それぞれの受講者へのインタビュー調査等から本取り組みの評価・検証結果を示す。

(3) 14:10～15:10 兵庫教育大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
生徒指導実践開発コースの取組と変遷	
松本 剛（兵庫教育大学教職大学院教授） 山中 一英（兵庫教育大学教職大学院教授）	兵庫教育大学教職大学院では、平成19年度から、主として「教科外教育」として位置づけられてきた教育活動を総括する専門コースとして「心の教育実践コース」が開設された。本コースはその後「生徒指導実践開発コース」と改称しつつ、昨年度入学生まで続いてきた。生徒指導・教育相談、道徳教育、キャリア教育、学級経営、特別活動などに関わる教職大学院の専門コースとして、本コースが取り組んできた教育・研究について紹介し、教職大学院における教科外教育への取組のありようについて考察したい。

(注) 進行の状況により、発表時間が若干変更になる場合があります。